

NHK海外情報発信強化に関する検討会（第4回）議事要旨

1. 日時

平成26年11月17日（月）10時00分～11時40分

2. 場所

総務省7階 省議室

3. 出席者

（1）構成員

多賀谷座長、坂村構成員、櫻井構成員、鳶構成員、高島構成員、平澤構成員、マリ構成員、水越構成員

（2）オブザーバ

岡庭外務副報道官（外務省）

（3）プレゼンテーション

板野専務理事、根本国際放送局長（NHK）

（4）総務省

桜井総務審議官、福岡大臣官房長、今林大臣官房総括審議官、安藤情報流通行政局長、渡辺大臣官房審議官、椿総務課長、長塩放送政策課長、湯本情報通信作品振興課長、金澤国際放送推進室長

4. 議事要旨

（1）NHKからの発表

板野専務理事より、資料4-1に基づきNHK国際放送の実施体制等について、資料4-2に基づきJIBにおける実施体制について説明が行われた。

（2）意見交換（構成員の主な発言は以下のとおり）

【坂村構成員】

- ・ NHKの国内放送はかなりの信頼を勝ち得ているのだから、編成を一本化し、日本の国内放送でやっているものをそのまま国際放送でも出してはどうか。
- ・ 検討会の会合では、同じ話が繰り返されている。どうすれば日本の海外情報発信力が高まるのか、という検討会であるということを確認すべき。

【櫻井構成員】

- ・ 我が国にとって重要な課題は、具体的にどういった事柄を報道しているのか。日韓関係や日中関係についての放送の内容や、慰安婦問題等の歴史認識に関する番組制作の状

況はどうか。

- ・ 国内のニュースを基にしているとのことだが、NHK の国内ニュースそのものが全体像を伝えていないという問題があるのではないか。それを基に海外に情報発信することは問題を増幅させるのではないか。
- ・ 日本の文化的背景や特徴をポジティブに発信し、国際的な理解を醸成することが重要。
- ・ 予算の問題については、民放と比べると NHK はとても恵まれている。海外情報発信の強化は当然必要だが、現体制の厳しい見直しも必要。

【畠構成員】

- ・ 番組を編成するときの理念や方針はどうなっているか。
- ・ 60～90 年代においては日本の経済力が情報発信力の根源にあったが、今は経済が衰弱し異なる。成長は重要だが、今後も日本が経済大国になることはないと思う。日本の存在感をみつけ、それを世界に知らしめるような情報を発信すべき。
- ・ 「日本の国益」ということをやり過ぎると、CCTV のように宣伝のように見えてしまう。
- ・ アジアの中心的な信頼できるニュースを常時放送するということが方針とすることが重要になるのではないか。アジアの BBC の位置とステータスを目指したらどうか。

【高島構成員】

- ・ NHK ワールドは、受信可能世帯数としては大きいと考えるが、BBC や CNN に比べ、何故、存在感がないのかという点が大きな問題。
- ・ チャンネル数が 200 チャンネルを超える中、なるべく若いチャンネル番号を獲得することも重要。地域ごとにきめ細かく連携を強化して、チャンネル確保するための努力をすべき。
- ・ 英語教育等に活用するなどして国内でも視聴してもらってはどうか。

【多賀谷座長】

- ・ JIB についての説明で、受信環境の整備については定性的な記載しかないが、北米やアジアなどでどういった人員・規模で取り組んでいるのか、どういう状況になっているか。NHK については、外部スタッフの人数等、具体的な実施体制をいただきたい。数字が出てこない議論にならない。

【平澤構成員】

- ・ CCTV や BBC に比べ、ハード面では大きく遅れているとは思わないが、誰が誰のために放送するのか、という方向性やビジョンが見えてこない。
- ・ 国際放送局の中で、インターネットの活用についてはどのような体制のもと、どのように放送と連動しているのか。また、番組販売のネットワークや体制はどうなっているのか。
- ・ インターネットは、配信されているコンテンツに行き着くまで遠く、アプリ・ネットストリーミングでの単純な配信だけでは、あまり意味がない。またアプリの 270 万ダウンロードというのは極端に少ない。海外発信については、インターネットの活用や番組販売については、放送部門と連携するように、組織的見直しを検討した方が良い。

【マリ構成員】

- ・ 外国人受けを気にしすぎず、日本のローカルなニュースを取上げ、地方の過疎化やその対策といった、日本のあるがままの姿を見せてはどうか。
- ・ ミャンマーに対しての発信については NHK の予算だけで進めているのか。政府からお金を出してもらって放送を行うことはあるのか。

【水越構成員】

- ・ 現地ではニッチなチャンネルである NHK ワールドで放送するのと、現地のメジャーなチャンネルに番組を提供するのとでは後者の方がインパクトがある。
- ・ 海外に提供するための番組を制作したり、海外からの取材を積極的にサポートするなどして、NHK ワールドの認知度を高めることが重要。